

## 矢本第一中学校の取組

### 1 職場体験・ボランティア活動を2年生で実施



2年生で職場体験・ボランティア活動を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響で実施が危ぶまれた行事でしたが、地域の26の事業者や団体のご協力で実施することができました。

様々な職業人と関わり、学ぶことを通して、勤労の意義や働く人々の思いを理解することができました。また故郷で働く人々と接することにより、地域を知り、誇りに思うきっかけにもなりました。

### 2 「職業人に話を聞く会」を1年生で実施



進路学習の一つとして、1年生を対象に実施している「職業人に話を聞く会」。今年度は感染対策の観点から、今までの学年全員で一斉に講話をいただくという形から、地域の8名の先生方にご協力いただき、グループごとに講話をいただくという形に代えて実施しました。

生徒からは「あいさつや返事は基本だということがわかった。」「働くことの意義や大切さについて考える機会になった。」「などの感想があり、貴重な機会となりました。

### 3 授業についても、地域の方と意見交換

#### 「魅力ある学校づくり」取組の視点

#### 居場所づくり

学級や学校をすべての生徒にとって落ち着ける場所にしていくこと。

教職員主導

#### 絆づくり

日々の授業や行事等においてすべての生徒が活躍し、互いが認め合える場面を実現すること。

生徒主体  
場と機会の設定(教職員)

- ・小・中が連携して取り組むことで、より大きな成果が出る。
- ・東松島市小・中学校魅力ある学校づくり担当者連絡会で情報交換を行っている。

授業の様子を公開し授業改善に結び付けるために11月に公開研究会を実施しました。市内の小中学校の先生方に集まっていただき、授業参観、授業検討会を実施しました。小学校の先生方と校種を越えて、授業の在り方について話し合うことができ、有意義な公開研究会となりました。

また、今年度は学校運営協議会の皆様にも参加していただき、様々なお立場から、子供たちに身に付けてほしい力等についてのご意見をいただきました。小学校・中学校・地域の方が一緒に授業について語り合う貴重な時間となりました。

## 矢本第二中学校の取組

### 1 地域の方々ならではの活発な意見交換



今年度の第1回学校運営協議会は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から参集しての会議は行わず、書面によって行われましたが、その後の会議については予定通り実施し、併せてその都度本校の教育活動を委員の方々に参観していただきました。第3回の学校運営協議会では、1学年のキャリア教育の一環として実施する「地域の人に話を聞く会」の講師選びを主に活発な話し合いが行われ、委員の方々が持つ地域の人脈に感嘆しました。

### 2 「働く」ということについて学びました



1月21日に1学年で「地域の人に話を聞く会」を実施しました。学校運営協議会の委員の方々からの紹介で4名の講師が来校し、自身の職業についての講話をいただきました。建築、編集者、薬剤師、販売・デザインという異なる職種の方々からの普段の学校生活では聞くことのできない貴重な話に、生徒たちはメモを取りながら熱心に聞き入っていました。この講話を通して、「働く」ということについての意義を感じ取ることができました。

### 3 震災当時の学区の様子を知り、決意を新たに



「防災教育講話」を学年ごとに実施し、「震災のあの日に本校の学区でどんなことが起きたのか」ということを全校生徒が学びました。講師には、震災当時に大曲小学校で勤務されていた先生をお招きし、学年ごとにテーマを設けてお話をいただきました。今まで詳しく知らなかった当時の地域の様子に驚きながらも、地域の一員として役に立ちたいという決意を持つ生徒が多く見受けられ、頼もしく感じました。当日は保護者の方にも参観いただき、感謝しております。

## 3年間、ご協力ありがとうございました

コミュニティ・スクール推進係は、教育委員会の組織再編により令和2年度で終了となります。

学校運営協議会に関することは、教育総務課で継続して担当してまいります。

コミュニティ・スクールが日本で最初に大きく取り上げられたのは、2000年。21世紀の教育を考える教育改革国民会議（江崎玲於奈座長）の「教育を変える17の提案」が最初です。ところが、翌年に大阪の附属池田小学校で児童や教職員の大量殺傷事件が起きたことから、学校への外部の出入りが厳しく制限されるようになりました。

学校運営協議会を設置することができることが平成16年に法律で規定されましたが、前述の事件の所為か平成17年は全国合わせてたった17校、平成28年の法改正で設置が努力義務化されるまではなかなか増えませんでした。

東松島市は震災によって地域コミュニティに打撃を受け、また学校の被害も大きかったことから、これまで培った市民協働のまちづくりの精神を基礎に、県内の他市町に先駆けてコミュニティ・スクールを市内全小中学校に設置する英断を下しました。

地域と学校の再生を目指すコミュニティ・スクールは、「地域とともに育つコミュニティ・スクール」とスローガンに表されるように、一朝一夕にうまく運営されるものではありません。地域の実態そして学校の実態に応じて、校

長先生を中心に少しずつ改善が加えられてより良い姿になっていくものと思います。

さて、コミュニティ・スクール推進係は3年間3人の職員で、学校運営協議会に同席させていただいたり、予算や文書の作成を行ったりしてきました。11校のそれぞれの学校運営協議会に出席するたびに、地域や学校の課題の重要度が違うことや委員の学校への愛着と熱意を感じることができました。今後とも、各校において学校と地域の実態にふさわしい課題解決のための熟議が展開され、子供たちのためそして地域活性化のため充実した学校運営が進められることを期待しています。

さて、私事になりますが、平成27年10月から東松島市教育委員会生涯学習課と教育総務課で計5年半お世話になりました。震災から10年が過ぎ、復興応援も終わりを迎えたので任期満了で退職いたします。

誌面をお借りして失礼とは存じますが、これまでいただきました御支援と御協力に感謝申し上げます。お別れの挨拶とさせていただきます。

東松島市教育委員会教育総務課 菅原 太

宮城県東松島市矢本字上河戸36-1

電話: 0225(82)1111 内線1251

FAX: 0225(82)1845

電子メール:

c-school@city.higashimatsushima.miyagi.jp

東松島市教育委員会コミュニティ・スクール推進係



東松島市教育委員会  
コミュニティ・スクール推進係

## 第10号

# レッツ コミスク

## Let's join community school

3月は、最終号(小中連携教育特別号)です。  
教育指導係から小中学校の連携について紹介いただきました。

### <東松島市で目指す15歳の姿>

東松島市では小中連携教育に取り組んでいます

「故郷（ふるさと）に誇りと愛情をもち、志高く、協働して未来を切り拓く人」

東松島市では「だれ一人、取り残さない」教育の推進を図り、市内すべての児童生徒に義務教育9年間を通して、これからの社会をたくましく生き抜く力を身に付けさせるため小中連携を推し進めています。

### 鳴瀬未来中学校区（令和2・3年度連携推進モデル地区）の取組

#### 【児童生徒の連携・交流】

- ①学校行事等
  - 小学校運動会への参加
  - 中学校行事への招待
- ②6年生の中学校体験等
  - 生徒会による学校紹介
  - 小中の交流
- ③生徒会と児童会の交流
  - 不安解消アンケート
  - 中学校区子供未来サミット

#### 【教員の連携・交流】

- ①授業参観や授業研究
  - 日常的な相互参観授業
  - 校内研究授業
- ②出前授業
  - 小中、小中の定期開催
- ③合同研修会
  - 情報教育研修
  - 児童理解に係る研修
  - 英語、外国語研修

#### 【教育課程の連携・交流】

- ①メディアコントロール
  - 児童生徒の声を生かしたルールづくり
- ②自主学習等の手引き
  - 自主学習スタンダードの作成
- ③9年間を見通した防災教育
  - 小中合同防災訓練の開催
- ④地域との連携
  - 「こども110番の家」の整備

#### 矢本二中学区の取組:小中合同あいさつ運動

大曲小学校へ矢本二中学生が出向いて、小中学生が合同であいさつ運動を行いました。心を育む「心あったかイトころ運動」をこれからも小中一緒に大切にに取り組んでいきます。

【右写真】▶

#### 矢本一中学区の取組:学校運営協議会連絡会

9年間の子供たちの成長を地域みんなで、同じ思いで支えていこうと、矢本一中学区の小学校3校の学校運営協議会(CS)と中学校の学校運営協議会(CS)の先生が合同で会議を行っています。



小中合同のあいさつ運動

### 第1回「子供未来サミット」(R2.8.1)が生活を見直す機会に!

東北大学加齢医学研究所瀧靖之教授から「脳の発達と、スマホやゲームとの関わり方」の講演をいただき、その後、「自分たちでできること」をテーマに小中一緒のグループ・ディスカッションを行いました。

参加した小中学生は、各学校へグループ・ディスカッションの結果を持ち帰り、児童会生徒会でメディアコントロールについて話し合いをもち、集会や放送で呼びかけたり、メディアコントロールデーを設けたりと積極的に継続した活動を行っています。

#### 【参加した生徒の感想】

小中学生の脳には、コミュニケーション能力や知的な好奇心がとても重要であることが分かった。そのメディアを使いすぎると、自分たちが成長できるチャンスを逃してしまうことになる。興味を持ったことはメディア上で解決するのではなく、書物にふれたり、実際に自然にふれたりすることは自分をより成長させてくれると思う。



グループ・ディスカッション